

1. 技術体系の特徴

経営類型	労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
葉たばこ専業 経営(第1黄色種)	人  3	葉たばこ(第1黄色種)		a	1. 品種は、第一黄色種(コーカー319)とする。 2. 播種及び前期育苗は委託とする。 3. 乾燥は、50%を委託(共同乾燥施設)とする。
		耕地面積	水田 畑	250 a	
経営目標	1 農業総収入	13,771	千円	4 1日当たり農業所得	13,877 円
	2 農業経営費	8,086	千円	5 1人当たり年間労働時間	1,093 時間
	3 農業所得	5,685	千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所 割	有 合	取得価格	耐 用 年 数	年 間 償 却 額
建物・施設	育苗ハウス	1	パイプハウス	1		千円 310	8	千円 17
	乾燥上屋及び作業舎	1	鉄骨・150㎡	1		14,177	24	591
	納屋(貯蔵室)	1	鉄骨・30㎡	1		2,835	24	118
	計					17,322		726
農機具	乾燥室・エコ乾燥機(コンピューター含む)	3	乾燥式25㎡、乾燥機3台	0.5		1,456	7	79
	トラクター	1	30ps	1		3,975	7	216
	ディスクプラウ	1	トラクター25~40ps用	1		819	7	44
	成畦被覆機	1	20a/hr	1		498	7	27
	管理機	1	5ps	1		256	7	14
	土壤消毒機	1		1		342	7	19
	高架型作業機(AP-1)	1		1		1,321	7	72
	防除機	1		1		577	7	31
	残幹処理機	1	AP-1対応(けん引式)KB-10	0.3		245	7	13
	簡易リフター	1		0.5		317	7	17
	梱包機	1		1		633	7	34
堆肥散布機	1		1		532	7	29	
普通トラック	1	2t	1		5,347	5	535	
	計					16,318		1,130

## 3. 技術体系

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(育苗) 仮植	仮植床準備	1下～2上	育苗ハウス	2	1	2	(3.3㎡当たり) 親床 子床 細末堆肥 110 <sup>kg</sup> 140 <sup>kg</sup> 原野土 36 54 クン炭 18 18 配合肥料 300g 450g 苗箱・ペーパーポット	播種後20日前後、4～5枚苗を仮植し、10枚頃まで育苗する。
	仮植	2中～2下	育苗ハウス	2	4	8		
育苗管理	灌水	2下～3上	育苗ハウス	1	2	2	内ビニール 支柱	本葉9枚の頃、低温に合うと早期発蕾株になるので留意する。 移植直前に十分灌水する。
(本畑) 本畑選定 耕耘整地	深耕・耕耘	10中～11上 1上～1中	トラクタ ロータリー	1	3	3	溶成磷肥 過リン酸石灰	年内に耕耘を2～3回実施し、 土壌の風化を図る。
土壌消毒		11下～ 12下 ※部分消毒 1下～2中	トラクタ 土壌消毒機	2	2	4	クロルピクリンくん蒸剤	全面 30cm間隔 約20 <sup>kg</sup> (33kg) 処理後は確実に鎮圧し、必ず ポリエチレン等で被覆する。 ※部分の場合は、畦内30cm 間隔 約6 <sup>kg</sup> (10a)
堆肥散布		1下～2上		2	1	2	堆肥 1,200kg	完熟堆肥を使用する。 (特に、塩素に留意)
施肥	基肥施用	1下～2上	堆肥・肥料散布機	2	1.5	3	有機化成肥料 合成草木灰肥料	施肥方法は条施にする。  第1黄色種 安山岩系 玄武岩系 N 7.6 kg 10.0 kg P2O5 17.8 kg 24.6 kg K2O 20.6 kg 29.2 kg
畦立て		2中～2下	成畦被覆機	1	3	3	畦面マルチポリ 防風ネット	高さ30cm以上の大高畦とする。
定植		3中～3下	移植器	4	2	8		深さは、最大葉が畦上に1～2 cm見える程度 平均気温、12～13℃頃
被覆		3中～3下	貼付器	2	1.5	3	貼付用マルチポリ	
被覆物除去		4中		2	1	2		貼付トンネル・移植後25日頃除去  (改良トンネル・移植後25日頃マルチリレー)
土寄せ	中耕・培土	4中～4下	管理機	1	5	5		

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
除草	除草剤散布	4下	防除機	1	2	2		薬剤は、茎葉に付着しないように散布する。
病虫害防除		4下	防除機	2	1	2	アドマイヤー水和剤等	防除回数 2回以内
		6上	防除機	2	1	2		
わき芽除去		4下～5下	AP-1 抑制剤用ノズル	3	5	15	コンタクト乳剤	接触剤は、コンタクト乳剤30～40倍液を1株10～15 <sup>ミリリットル</sup> 散布する。 2回目は、花軸が伸び切った頃(1回目から7～10日目)に散布する。 3回目以降は、発生に応じて散布する。イエローリボン乳剤は心止後50倍、ホワイトリボン乳剤は心止め後30～50倍
		5下～7下	AP-1 抑制剤用ノズル	1	1	1	イエローリボン乳剤または ホワイトリボン乳剤(心止後)	
芯止め		5下	心止鎌	1	2	2		開花1輪の頃、第1花枝葉とも4枚程度切除する。
収穫		5中～7下	AP-1 トラック	3	10	30	収穫布	適熟葉収穫を心掛け計画的に着位別収穫を励行する。 収穫は、下位葉から順次2枚ずつ収穫し、上位葉(総かぎ)は8枚程度を1度に葉分ごと区分収穫する。
残幹処理		8上	トラクタ 残幹処理機	2	2	4		残幹は、収穫終了後なるべく早く抜き取り処理する。
反転・深耕		8中～9下	トラクタ ディスクプラウ	1	2	2		耕種的防除のために夏期深耕を実施する。
乾燥		5中～8上	乾燥室・エコ乾燥機 ラック 簡易リフター	3	8	24		葉編み時に、枯上り、病害葉未熟葉等を選別する。 葉編みは、吊り込み量を均一にする。
ピッキング荷造り		5中～8上	葉たばこ梱包機 計 量台秤	3	5	15		乾燥の取り下ろし時に色損葉は、抜き取り区別する。 取り下ろし荷造り時に必ず着葉位置と作柄の区分を明記する。
貯蔵		5下～ 10上		2	1	2		貯蔵場所は、吸湿や移り香のない場所で、しかも温度変化の少ない場所に保管する。
出荷		10中	トラック	2	1	2		葉分け下位の方から順(中葉、合葉、本葉、上葉)に出荷する。
合計						148		

